



## 都市計画マスタープランを見たことがありますか？

都市計画とは、都市計画法によれば「都市の健全な発展と秩序ある整備を図るための土地利用、都市施設の整備や市街地開発事業に関する計画」と定義されています。この都市計画を実現するためには「適正な制限のもとに土地の合理的な利用が図られる」べきであることが基本理念として掲げられており、都市計画決定に伴い建築制限がかかることが許容されることとなります。

都市計画を定める指針となるのが「都市計画マスタープラン」(正式名称は市町村の都市計画に関する基本的な方針)ですが、市政全般の基本方針の「福岡市基本計画」、福岡県が定める「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」等の上位計画に即して定める必要があります。

また、用途地域や道路など市町村が定める都市計画はこの都市計画マスタープランに即して定めることとなります。

福岡市の都市計画マスタープランは平成4年の都市計画法の改正を受け、平成13年に策定していますが、上位計画が変更されたことを受け、現在その改定に取り組んでおり、8月20日から9月30日まで情報プラザ、都市計画課、各区役所等で「改訂の基本的な考え方」(案)を縦覧し、市民意見を募集しています。また、資料は都市計画課のホームページでも入手可能です。

少し堅苦しい話のようですが、都市計画では自分の土地がまた周辺の土地がどのように利用可能か、また道路の計画はどうなっているか、公園はどこに出来るか等々

市民の皆さんに大変身近な計画です。その指針となる都市計画マスタープランを一度手にとって眺めてみてはどうでしょうか？今回縦覧されているのは案ですので、市民の感覚で福岡市の都市計画に様々な意見を言える機会がまだまだあります。

ちなみに、今回改訂を進めている都市計画マスタープラン(案)では、「コンパクトで持続可能な環境共生都市ふくおか」を目指して「機能集約型の都市づくり」「活力ある都心づくり」「災害に強い都市づくり」「快適で住みやすい都市づくり」「地球に優しい都市づくり」「九州アジアの交流拠点都市づくり」の6つの視点から都市計画を進めるとしています。その詳細は皆さんが資料をご覧になって読まれてみるとなかなか面白いと思うのですが。どうでしょうか？

(副理事長 松本 法雄)

## 目次

◆特集『研究者の視点—これからの課題について思うこと』

◆マスコミで見る「都市研」の今！

◆都市研 活動報告-1

◇コラム「コンコルドの誤り」特別研究員 岡田允

◆都市研 活動報告-2

◇お知らせ ◆URC資料室だより NO. 23

\*表紙の写真:「第5回中国人間居住環境フォーラム」で福岡市の景観について語る副理事長・左は通訳を務める唐寅主任研究員(左)・中国人発表者(肖溪 H20 年度客員研究員)の様子(右上)・配布資料

## ◆特集『研究者の視点—これからの課題について思うこと』

### ○地方分権・大都市制度

研究主査 新井直樹

道州制？基礎自治体重視？先般の総選挙では、各政党のマニフェストにおいて地方分権改革のあり方が争点のひとつに取り上げられました。一方では、平成の大合併によって政令指定都市が新たに6市誕生して、全国で18市となるなど、わが国は都市中心の内政構造に大きく変貌しています。

こうした中、既存の政令指定都市であった横浜市、大阪市、名古屋市は、東アジア・世界の拠点の形成及び持続可能な地域社会構築の観点から、新たな大都市制度の創設を独自に提案しています。URCでも平成19年度の自主研究で、釜山広域市も念頭において、「地方分権を見据え大都市行政に見合った権限・財源の拡充」と「福岡都市圏を一体的に運営できる大都市制度」を提言するなど、研究を蓄積しています。

アジア新時代の交流拠点都市を掲げる福岡市が、今後、いかなる都市を目指すべきなのか、そしてその前提となる大都市制度がどうあったらよいのか、このような動きを見据え、考える必要があるのではないのでしょうか。

### ○路地・路地裏

研究主査 梶返恭彦

現在、まちなかの路地・路地裏の多くが失われつつあります。狭小な街路ゆえに、災害時の対応に支障があるなど課題もありますが、路地・路地裏には、人間味のある暖かいコミュニティが存在しています。昨年度、6名の福岡アジア都市研究所市民研究員の皆さんが、「魅力ある路地・路地裏の復権と再生」をテーマに、福岡市のまちづくりと路地について調査研究を行いました。路地・路地裏の再生のために、残すべきもの、整備すべきものを明らかにして、魅力的な路地・路地裏をまちづくりに活かすための方策を考えました。

この研究成果を踏まえ、福岡市に今なお残存する路地・路地裏について、景観的な側面からイメージ評価を行うことで、福岡市の路地・路地裏を再認識するとともに、

改めて路地・路地裏からのまちづくりを考えていくきっかけにしたいと考えています。10月13日にはシンポジウムを開催してその調査結果の一部をご報告したいと考えています。



### ○低炭素社会

研究主査 田村一軌

地球温暖化への対応として、温室効果ガスの排出削減が求められています。京都議定書により、日本は2012年までに1990年比6%の削減という国際的義務を負っていますし、今年6月には麻生総理大臣が2020年までに2005年比15%の削減という中期目標を発表しました。温室効果ガスの大部分は二酸化炭素ですから、「低炭素社会」の実現が喫緊の課題となっているわけです。今のところ福岡市においては、省エネ・省資源・ゴミ減量などの啓発・啓蒙活動以上の施策の実施は少なく、低炭素社

会実現への決め手に欠ける状況となっています。

ところで、ガソリン価格が高騰した昨年は、高速道路利用台数やガソリン販売量が減少しました。逆に今年は、高速道路料金の上限が1,000円となる割引制度によって高速道路利用台数が増加しているようです。これらの事象は自動車利用に価格弾力性があるということ、つまり高速道路料金あるいはガソリン価格（税率）といった政策変数によって自動車からの二酸化炭素排出量をコントロールできる可能性があるということを示しています。

ただし、都市間競争にさらされている福岡市が独自にそのような政策を打ち出すことは難しいでしょう。福岡市においては、啓発活動よりも実効性のある政策で、なおかつ福岡市の魅力を高めながら同時に二酸化炭素排出を抑制するという高度な政策が求められていると言えます。

### ○ワーク・ライフ・バランス

研究主査 岩屋京子

昨年度の個人研究で「働くママの両立の現状」を調査し、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉にもその過程で出会いました。言葉はどうあれ、個人が「自分らしく働き、生きる」ことを実現する、それが経済活動にもプラスの効果を及ぼすことを示すことが今後の課題だと思っています。調査で、改めて女性の働き方は男性の働き方とコインの裏表の関係にあることを実感しました。旧来の雇用慣行が全ての職場で急に変わるとは思えません。が、変化は確実に起こっていることもまた、調査を通じて確認できました。その流れを加速させることが自治体の「ワーク・ライフ・バランス施策」の役割ではないのでしょうか。働く人がワーク・ライフ・バランスを保てる働き方をすることで子育ても楽しめる、その結果出生率が回復したり、他の都市から移り住んで子育てをする人が増える、そんなこともあり得るのではないかと思います。

国際的にも、日本の女性の経済社会への参入度合いの極端な低さは指摘されていますが、私の周りでも、活かせる力が眠ったままの「もったいない」状態の女性が沢山います。夫の転勤や出産を機に仕事を辞めた女性が、数年後に再び働こうとしても思うような職が見つからずに諦めてしまうことが多いのです。この「もったいない」を解消することができれば、女性の消費性向の高さから見ても、かなり大きな経済貢献力になるのに、と思う日々です。

### ○福岡都市圏における産業展開と新しい「都市型産業」形成

特別研究員 岡田允

これまで福岡市は、地方中枢都市として着実な発展を遂げてきました。それは、1,400万人の人口を擁する九州地方の消費中心、貿易・旅客流動の拠点、情報サービス・高等教育・文化など都市的サービス機能の集積・集中を主因とするものであったと思います。

しかし、人口減少時代への突入、世界経済の成長拠点の新興国へのシフトと先進国経済の低成長化、それらを反映した全国的都市システム（都市間系列結合関係）再



編の進行など基礎条件が変化の中で、福岡市が今後とも都市的サービス機能を中心として成長を続けることは難しいと推測されます。したがって、これまで都市的空間とは必ずしも相性が良くなかった生産機能（製造業やその支援サービス）を、都市成長の基盤として意識的、計画的に強化していくことが必要でしょう。

生産機能の強化の方向は、1つは都心部を形成する福岡市においては都市型（都心部立地型）産業の育成・導入であり、2つは他の都市圏内地域における生産機能（事業所）の導入・育成に寄与しうる中心都市福岡市の都市機能の形成と提供です。

そこで、地方中枢都市を中核とした福岡都市圏に立地することが、それぞれのバリューチェーンの中で、どのような意味で優位性となっているのか、または、問題となるのかを明らかにし、それら主要産業事業所が「競争優位性」を形成するための支援課題を明らかにしていく。それらを踏まえ、生産機能を基盤とした新しい都市成長活力の確保を図ることが必要だと思えます。

## ◆マスコミで見る「都市研」の今！

### ◎新聞（記事は資料室で読めます。）

(2009/8/26 日刊建設工業新聞 9p)

博多まちづくり協議会/9月9日に福岡市でシンポ/「駅の力」考察 当研究所が後援

(2009/8/21 建設通信新聞 10p)

9月1日から応募登録/簡保レクC跡地事業者/福岡県民間利用ゾーン活用委員会・会長樗木武理事長

(2009/8/2 南日本新聞朝刊 7p)

韓国・釜山市で鹿児島の魅力PR/地下鉄構内に観光広告＝鹿県と鹿児島観光連盟、誘致本格化「釜山-福岡航路の韓国人利用客へのアンケート調査」が引用される

(2009/7/30 朝日新聞朝刊 26p)

博多ヨカとこ美人になれる？美容施設、横浜・神戸を圧倒 福岡の財団調査

(2009/7/25 西日本新聞朝刊 31p)

福岡市内の7道路 愛称候補を選定 福岡市と本紙公募 選考委員長・樗木武理事長

(2009/7/6 西日本新聞朝刊 7p)

ゲスト講師が刺激する @九大研究室 山下永子研究主査 九大で『福岡市の都市戦略-「アジア」と「女性が美しくなるラブリーなまち』を講義

(2009/7/1 西日本新聞朝刊 21p)

福岡市 屋根付き広場など提示 博多口駅前広場 再整備へ検討会 座長・樗木武理事長

(2009/7/1 毎日新聞朝刊 21p)

JR博多駅前広場など 景観や機能 意見交換 再整備検討会 座長・樗木武理事長

(2009/7/1 読売新聞朝刊 26p)

JR博多駅の駅前広場整備 福岡市が検討会設置 検討会 座長・樗木武理事長

### ◎雑誌

(2009/8/1 AVION N CLUB 7th Anniversary Vol.01 SUMMER 2009 21p)

「風を受けたコトバ」に唐寅主任研究員「人事を尽くして天命に任せる：謀事在人、成事在天」を紹介。

(2009/7 交通工学 Vol.44 No.4 1～2p)

特集：「九州・沖縄における道路サービス向上の取り組みと課題」の巻頭言「“みち”と共に築く九州の未来」を樗木武理事長が執筆

(2009/7 交通工学 Vol.44 No.4 31～36p)

博多駅地区社会実験「はかたんウォーク」実施報告 兼子慎一郎研究主査、篠崎慎一元研究主査が紹介

(2009/7/17「ふく・よか」通信 第17号 9p)

「シビックプライド的」まちづくりアプローチ②を山下永子研究主査が執筆

(2009/7/1 KYUSHU MARKETING EYES 2009夏 Vol.50 8～9p)

特集：「九州の近未来を展望する」に山下永子研究主査がURCと研究テーマについて他を執筆

### ◎ラジオ（お聞きになりたい方はご一報ください。）

(2009/8/9 RKBラジオ 林田スマのハートフルトーク)

山下永子研究主査が出演 福岡市のアジア政策からシティプロモーションについて語る。

(2009/8/15 RKBラジオ 安藤豊 どんどこサタデー)

岩屋京子研究主査が出演 「福岡の女性キレイ」を語る。

### ◎ネットニュース

(2009/8/25 博多経済新聞 ヘッドラインニュース)

博多で「駅の力を生かしたまちづくり」シンポジウム－当研究所が後援

(2009/6/30 天神経済新聞 エリア特集)

天神の未来は「天女」が担う!? 山下永子研究主査が第4回「天神おもてなし学校」で「ストレスを感じさせないおもてなし力」テーマのワークショップを実施

## ◆都市研 活動報告-1

### 7月30日木曜日、アクロス福岡セミナー室2において、中国特別講演会を行いました！

中国の世界同時不況からの早い回復については、波及する影響も大きく各方面で関心が高い問題です。中国との関連が深い当研究所では、中国政府の政策実務責任者を講師に迎え、その秘密の一端を垣間見る機会を実現させました。講師のご厚意で意見交換を交え、内容は高齢化や都市問題など広範囲に及び、参加者にとって大変貴重な体験でした。講演要旨については近々HP掲載予定です。

また、今回は講師の中国：国家発展改革委員会副委員長である楊偉民氏がたまたま学術研究のために私人として来日、そこにアジア太平洋センター時代から引継ぐ交流実績の高い評価が縁となり、この講演会が実現した経緯があります。これは、長期間の交流活動の集積が結実した一つの事例であり、楊氏が福岡市に好印象を持たれたことも含めて、福岡市の財産になると言えます。自主研究課題である「日中交流プラットフォーム」が機能した一例として、非常に意義深い試みとなりました。

(研究主査 田梅朋子)

## ◇コラム 「コンコルドの誤り」

行動生態学という学問分野がある。

それは、動物たちがどのように行動するように進化してきたかを研究するものだという。

1羽の雄鳥がある雌に求愛しており、たくさんの餌をプレゼントしてきたが、メスは一向に気に入ってくれない、このような状況で動物たちがどのように行動するよう進化してきたか、すなわち、どのような行動が進化を促進してきたかを考える時、「一昔前には、雄は…大量の投資をしてしまったので、…損失が非常に大きくなるから求愛をやめないだろう、という議論があった」という。「ところがこれは理論的に誤りなのである。」「…雄が…求愛を続けている雌の隣に、…求愛されれば十分に応える気のある雌が…」現れれば、「雄は、過去の投資の量にかかわらず、さっさとそちらの雌に乗り換える…。」(長谷川眞理子「科学の目 科学のこころ」P13~14)つまり、将来の行動に関する意思決定は、過去の投資の大きさではなく、将来の見通しと現在のオプションによらねばならない。それが進化に導く行動原理なのだという。

英仏が共同開発した超音速民間旅客機コンコルドは1976年1月に運用開始され、2003年11月には退役した。このコンコルドは1969年3月には完成していたが、騒音が激しい、燃費が悪い、乗り心地が悪い、そして航空需要の大衆化=低コスト化の潮流に逆行するなど採算に乗らないことが判っていたにもかかわらず、プロジェクトは進められ、結局16機が作られ1976年11月に製造中止された。このように、過去の投資の大きさに影響されて、将来の行動を決めることを、行動生態学の分野では、「コンコルドの誤り」と言い、よく「知られている考え方」(前掲書)なのだそうです。

今年3月、国土交通省は「巨額の税金を投入する割に得られる便益が小さい」として着工済みの国道18路線の工事を凍結したが、それからわずか4ヵ月後、17路線で工事が再開されることになった。同省の有識者会議は9路線については、2車線に変更するなど建設費用が圧縮されたので「妥当」と判断したが、他の8路線は「すでに造ってしまった分がもったいない」というような理由で復活が決まったようだ。過去にどれだけの投資をしたかで、将来の行動を決めるのは、まさに「コンコルドの誤り」である。われわれは、どうして「コンコルドの誤り」(「思考の落とし穴」)から逃れられないのだろうか？

(特別研究員 岡田允)

## ◆都市研 活動報告-2

### 「第5回中国人間居住環境フォーラム」に行ってきました！

8月9日~10日にかけて中国内モンゴル自治区オルドス市にあるウーシン旗(旗はモンゴル族特有の地方名)で開催された、「第5回中国人間居住環境フォーラム」で、URCの松本副理事長が福岡市の都市景観に関する発表を行いました。今年で5回目になるこの会議は、中国不動産住宅研究会-人間居住環境委員会が主催し、中国国内、国外から人間居住環境の専門家・学者、関連する政府機関、デベロッパー、研究所、都市計画・都市デザイン関係者約150名が集いました。会議では、他の発表者の配付資料がなかったため、URCが用意したパワーポイントの発表資料、「景観よかところマップ」、URCのパンフレットを熱心に読んでいた参加者が多数いました。福岡のことを知ってもらいたい良い機会になりました。欲を言えば、「景観よかところマップ」の中国語版が完成するといったと思いました。(交流推進員 大関麻里子)

### ◇お知らせ★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

#### ★アジア太平洋都市サミット実務者会議を行いません。

9月17日(木)、18日(金)は「文化芸術活動による都市の魅力づくり」をテーマにアジア太平洋都市サミット実務者会議を行いません。ただ今、市民の参加者募集中です。ご希望の方は下記までご連絡ください。

#### ★都市セミナーを開催します！

「路地・路地裏シンポジウム」-路地の魅力発見-  
日時：10月13日(火) 14:00~16:30  
場所：福岡市役所本庁舎15F講堂

去年の市民研究員のテーマでもあった「路地・路地裏」。最近静かなブームにもなっているようです。この「路地・路地裏」について、まちづくりの視点から考えるシンポジウムを開催します。お楽しみに。

### ◆URC資料室だより NO. 23★☆☆

#### ★第14回 ミニセミナーを行いました！

7月17日金曜日午後5時から6時半まで、「隣国から見た福岡市のイメージ-中国・韓国での福岡市の知名度は？」と題したミニセミナーを行いました。講師は山下永子研究主査で、自主研究で調査した結果をお話しました。ご参加、ありがとうございました。



今回のミニセミナーは、10月7日水曜日、午後5時から行います。テーマは「第4回個人研究報告 自転車のまちづくり-パリのレンタサイクルシステムヴェリブ(Vélib')に学ぶ-」講師は、兼子慎一郎研究主査です。多くのご参加をお待ちしています。

(都市政策資料室 司書 山崎三枝)

## 都市研

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

\*9月に入り、市役所の朝顔のカーテンに茶色が目立つようになりました。ひそやかに秋が進んでいるようです。(崎)

編集・発行：(財)福岡アジア都市研究所 都市政策資料室 〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1 福岡市役所北別館6階 TEL:092-733-5707 FAX:092-733-5680 E-mail: [library@urc.or.jp](mailto:library@urc.or.jp) URL: <http://www.urc.or.jp>